



当社のFacebookを始めました。

サステナビリティ経営への取り組み初の統合報告書発行

当社は、中長期的な価値創造に向けた考え方や取り組みについて、財務・非財務両方の観点からお伝えすることを目的として、当社初となる「クミアイ化学グループ統合報告書2023」を発行いたしました。

本報告書には、事業概要や経営戦略、気候変動や農業を取り巻く社会課題に対する当社の考え方や取り組みなどを掲載しており、株主や投資家をはじめとする全てのステークホルダーの皆さまに、当社について、より一層理解を深めていただける内容となっております。

今後もステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを強化し、事業を通じた持続的な社会の実現と企業価値の向上に努めてまいります。

詳細は下記をご覧ください。

統合報告書ページ <https://ir.kumiai-chem.co.jp/ja/library/csr.html>



マテリアリティに対するKPIを設定

当社では、「私たちは創造する科学を通じて「いのちと自然を守り育てる」ことをメインテーマとし、安全・安心で豊かな社会の実現に貢献します。」という企業理念に基づき、経営ビジョンや、100年企業としての「あるべき姿」を定めており、これらビジョンやあるべき姿の実現に向け、マテリアリティ(重点課題)を特定しています。

各マテリアリティについては、達成度を評価するための目標(KPI)を設定し、進捗状況をモニタリングしながら、取り組みを進め、ステークホルダーの皆さまとの情報共有を図ってまいります。

KPIなど詳細は下記をご覧ください

統合報告書ページ_分割ダウンロード_マテリアリティ

https://ir.kumiai-chem.co.jp/ja/library/csr/main/00/teaserItems1/04/linkList/09/link/ar2023_10.pdf

	マテリアリティ	2030年度目標(抜粋)	SDGsとの関係
社会課題の解決	持続可能な農業への貢献	豆つぶ® 剤使用農地面積: 水稻栽培面積比2%増(2022年度比)	2 気候変動, 5 持続可能な生産・消費
	研究開発力の強化	特許出願件数: 120件	8 持続可能な産業・イノベーション
環境	気候変動・環境負荷の低減	温室効果ガス排出量: 30%減(2019年度比)	13 気候変動, 15 陸の生態系
	生物多様性への貢献	北海道福島町の山林のインフラ整備 ビオトープの造成・維持管理	14 海洋資源, 15 陸の生態系
	循環型社会への貢献	廃棄物ゼロエミッションの推進: 埋立処分率1%以下	12 持続可能な消費・生産
社会	労働安全衛生の推進	休業災害件数: 0件	3 健全な労働と経済成長
	人権の尊重	人権教育・研修の実施: 社員カバー率100% ハラスメント研修の実施: 社員カバー率100%	5 ジェンダー平等, 8 持続可能な産業・イノベーション
	ダイバーシティ&インクルージョンの推進	女性管理職の割合: 8.2% 男性の育児休業取得率: 100%	5 ジェンダー平等, 8 持続可能な産業・イノベーション
	ワークライフバランスの推進	平均年次有給休暇取得率: 80% 健康経営ホワイト500の継続取得	3 健全な労働と経済成長, 8 持続可能な産業・イノベーション
	人材の育成	1人当たりの研修時間: 20時間	4 質の高い教育, 8 持続可能な産業・イノベーション

製品紹介

海外向けとして当社の業績に大きく貢献している除草剤アクシーブ。実は、国内用としても開発、販売しています。

その一つは、北海道のコムギ用除草剤でジフルフェニカンとの混合剤の「クタシーブフロアブル」。スズメノカタビラなどの一年生イネ科雑草に効果が高く、また、コムギ作で問題となる広葉雑草にも安定した効果を示します。北海道限定で2021年8月から販売されている、期待の除草剤です。

もう一つは、当社子会社理研グリーンが販売している、芝用除草剤「理研ソリストSC」。芝地で問題となるスズメノカタビラに対し、発生初期の防除でも安定した効果を発揮します。また、幅広い雑草に効果が高く、イネ科雑草だけでなく広葉雑草も同時に防除できるため、ゴルフ場で大好評をいただいています。



製品一覧_クタシーブフロアブル
https://www.kumiai-chem.co.jp/products/document/kitaxeev_fl.html



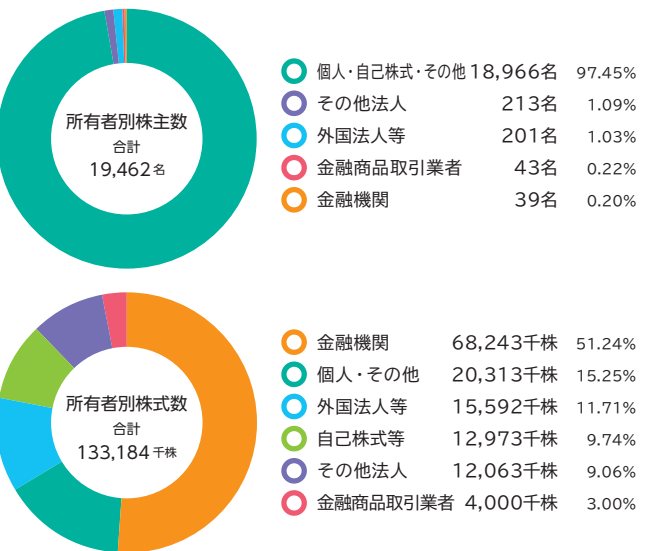
理研G_製品一覧_ソリストSC
<http://www.rikengreen.co.jp/ryokukashizai/product/golf/soliste-sc.html>

株式情報/会社情報 (2023年4月30日現在)

■株式の状況

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	133,184,612株 (自己株式 12,972,472株を含む)
株主数	19,462名

■株式分布状況



■会社概要

会社名: クミアイ化学工業株式会社
設立年月日: 1949年6月20日
資本金: 4,534百万円
事業内容: 殺虫剤・殺菌剤・除草剤などの農薬の製造・販売
有機中間体・アミン硬化剤等の化成品の製造・販売
従業員数: 1,832名(連結) (2022年10月31日)
本社所在地: 〒110-8782 東京都台東区池之端一丁目4番26号

■大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
全国農業協同組合連合会	26,527	22.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	13,117	10.91
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	6,700	5.57
農林中央金庫	5,517	4.58
共栄火災海上保険株式会社	4,480	3.72
静岡県経済農業協同組合連合会	2,770	2.30
SMBC日興証券株式会社	1,964	1.63
日本曹達株式会社	1,928	1.60
第一生命保険株式会社	1,660	1.38
日本生命保険相互会社	1,597	1.32

(注) 1. 持株数、持株比率は表示単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 当社は自己株式12,972,472株を保有しておりますが上記の大株主から除いております。
3. 持株比率は、自己株式(12,972,472株)を控除して計算しております。

クミアイ化学工業株式会社

本社 東京都台東区池之端一丁目4番26号 ※この株主通信に関するお問合せは下記までお願いいたします。

広報課 03-3822-5036

株式メモ

事業年度: 11月1日から翌年10月31日まで

定時株主総会: 毎年1月中

株主名簿管理人: 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先(郵送先): 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

基準日: 定時株主総会については10月31日、その他必要がある時は、あらかじめ公告する一定の日

公告の方法: 電子公告により行う公告掲載URL
<https://www.kumiai-chem.co.jp/>
(但し、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

株式に関するお手続き等について

当社株式のお手続き窓口とお問合せ先は次のとおりです。

お手続き窓口およびお問合せ先

- まだ受け取ってられない配当金の受領に関するお手続きおよびそのご照会
- 特別口座に関する振替請求、単元未満株式の買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き
- 株主名簿にご登録の配当金受取方法に関するご照会
- 株主さま宛郵便物の発送と返戻に関するご照会
- 特別口座に関する各お手続きおよびそのご照会

お手続き窓口 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店の窓口

お問合せ先 三菱UFJ信託銀行株式会社
各種お問合せ 0120-232-711

インターネットによるダウンロード <https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

- お取引の証券会社等に開設されている振替口座に預託されている当社株式に関する単元未満株式買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き
- 上記の各お手続きに関するご照会

お取引口座を開設されている証券会社等にてお手続き又は、お問合せをお願いします。

アンケートご返送のお願い

株主の皆さまの率直なご意見・ご感想をぜひお聞かせください。お手数ですが、同封のアンケートはがきにご記入いただき、ご返送くださいますよう、お願い申し上げます。

アンケートはがきご返送締め切り
2023年7月31日



IR情報を当社ホームページでご覧になれます。
<https://ir.kumiai-chem.co.jp/ja/index.html>

クミアイ化学IR



環境に配慮した「植物油インキ」を使用しています。

こちらのPDFデータは制作した印刷物に掲載したものです。

Letter

第75期 中間株主通信 2022年11月1日 → 2023年4月30日 vol.11

Top Message

研究領域・事業領域の拡大とサステナビリティ経営の深化

Business Topics

中期経営計画の進捗

Focus On クミカ

第5回 静岡工場を知る

Create the Future
~新たな可能性へのチャレンジ~



証券コード 4996

Top Message

トップメッセージ

研究領域・事業領域の拡大、
サステナビリティ経営の深化を
進めてまいります。



代表取締役 社長
高木 誠

第75期中間期の振り返り

中間期は前年比で増収増益を達成しました。農業及び農業関連事業では、主に海外向けに販売している畑作用除草剤アクシーブの販売が前年比で大幅に増加しました。国内農業市場では、水稻用除草剤エフィーダと水稻用殺菌剤ディザルタも順調に成長しています。昨年度から原材料コストが上昇しており、価格転嫁が追い付いていない製品はありますが、アクシーブや国内向け農業の値上げにより、前年同期比ではコスト増をカバーできたことも増収増益に寄与しています。

一方、化成品事業では、中国及び米国での景気減速により、一部製品の需要が停滞していることから、主力である塩素化事業と精密化学品事業が、前年同期比で減収となりました。

原材料費の高止まりや、海外経済の先行きが不透明な側面はあるものの、当社の事業は通期計画達成に向け順調に推移しています。

中期経営計画の最終年度として

将来的な「あるべき姿」の実現に向けたさまざまな取り組みに一層注力していきます。特に研究領域・事業領域の拡大では、新規殺ダニ剤フルペンチオフェノックスや新規微生物農薬エコアークなど、農業現場の課題解決に資する新剤の開発を推進しています。また、バイオスティミュラント※やメタンガス抑制技術といった新技術の開発にも努めています。加えて、プロセス化学研究センターに新素材開発研究室を新設しました。グループ会社の研究員も配置し、各社が持つ知見やノウハウ、技術を生かして、化成品事業における新規分野の開拓や事業の川下化を目指します。

当社では、2022年度からサステナビリティ経営の基盤強化を図ってきました。プライム市場上場企業として経済価値、社会価値の両立によるさらなる企業価値の向上を目指すべく、各事業で取り組みを推進しています。2022年12月には、当社グループの事業戦略や事業環境の変化を踏まえ、マテリアリティを見直し、KPIを設定しました。気候変動への取り組みとしては、2022年11月にTCFDへの賛同を表明し、提言に沿った情報開示を進めています。さらに2023年4月に統合報告書を作成し、冊子のみではなくコーポレートサイトでも公開しています。

また、「お米をまもるはなし」、「リンゴとミカンをまもるはなし」という漫画を使った当社オリジナル小冊子の配布などにより、農業の大切さ、農業の必要性や安全性についての啓発活動も継続して実施しています。

株主（ステークホルダー）へのメッセージ

今期の業績は好調に推移しており、2023年6月には、業績予想を上方修正するとともに、中間配当を増額し、期末配当も増額することとしました。

今期策定中の次期中期経営計画では、より株主の皆さまの目線に立った利益還元と財務健全性の維持に関する基本的な考え方も開示する予定です。

株主の皆さまのご意見を経営やIR活動に反映することを目的として、アンケートを同封させていただきました。ぜひ、ご回答くださいますようお願いいたします。

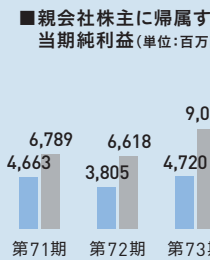
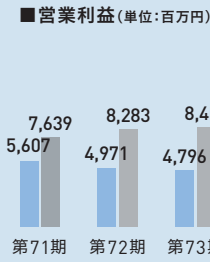
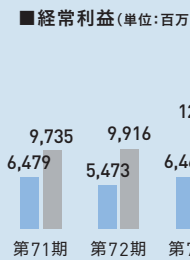
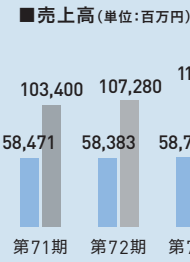
今後も持続的な企業価値の向上を実現し、株主の皆さまのご期待に応えてまいります。引き続き変わらぬご支援をお願いいたします。

※近年、欧米を中心に注目を浴びている新しい農業資材。農作物の活力、ストレス耐性、収量、品質、収穫後の保存性などを改善するために使用される農作物や土壌により良い生理状態をもたらす様々な物質や微生物。

当期経営成績

当上半期は、海外向け農業販売が好調に推移したことに加え、価格転嫁等利益確保に向けた取り組みを推進。売上高954億円、営業利益126億円という増収増益の結果となりました。

■ 第2四半期
■ 通期



Focus On クミカ

第5回
静岡工場
を知る

研究開発 → 製造 → 販売 → 製品としてお客さまへ

創製する 評価する 製剤化する 工業化する 原体をつくる 製品をつくる

当社の活動は各事業所や従業員一人ひとりの取り組みによって支えられています。各事業所・製造拠点をご紹介するこのコーナーの第5回では、静岡県富士市にある静岡工場をご紹介します。

静岡工場

— 農薬原体と化成品の製造拠点 —

当社ではお客さまのニーズに合わせた製品の製造を行っています。安全性と信頼性を兼ね備えた製品を提供するとともに、環境に優しい農薬と化成品の製造に努めています。

皆さまが普段の生活で使用する医薬品には、その医薬品の目的となる効果を表す「有効成分」が入っています。農薬も同じように有効成分が含まれており、「原体」と呼ばれています。農薬原体は、対象となる雑草や病害虫に対して農薬が効果を示すた

めに欠かすことはできません。当社の保有する静岡工場では、農薬原体を主軸に、医薬品中間体や高機能化学品など様々な分野の有機化合物を生産し、世界へと供給しています。



静岡工場長
渡辺 智明

静岡工場の特徴

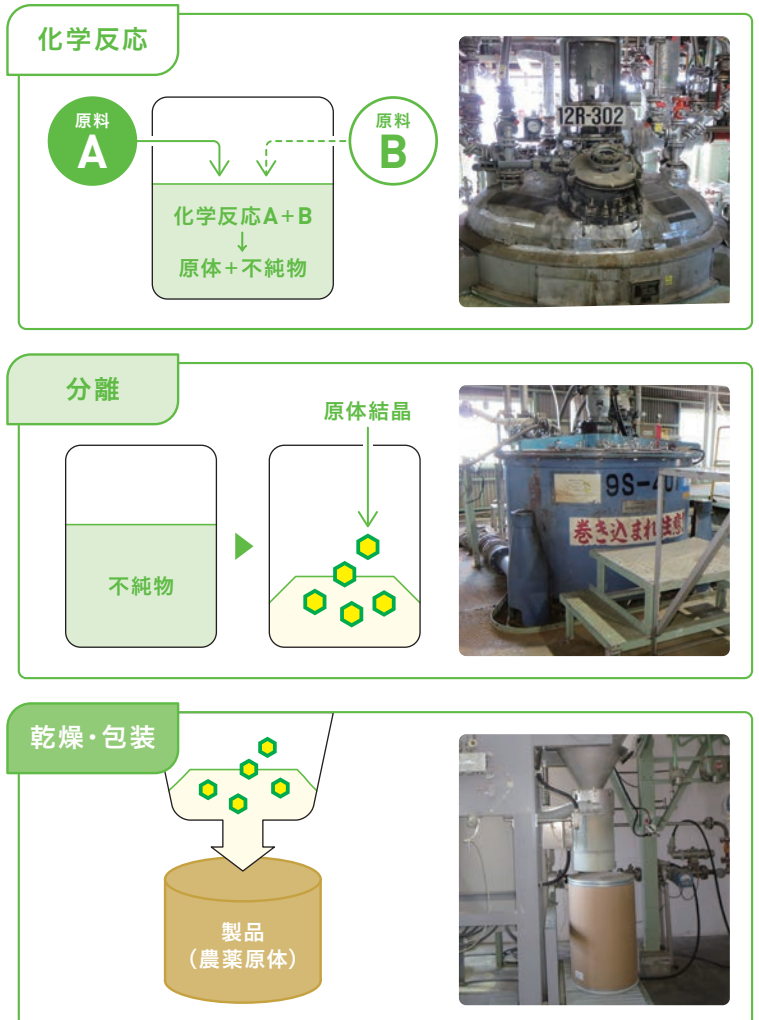
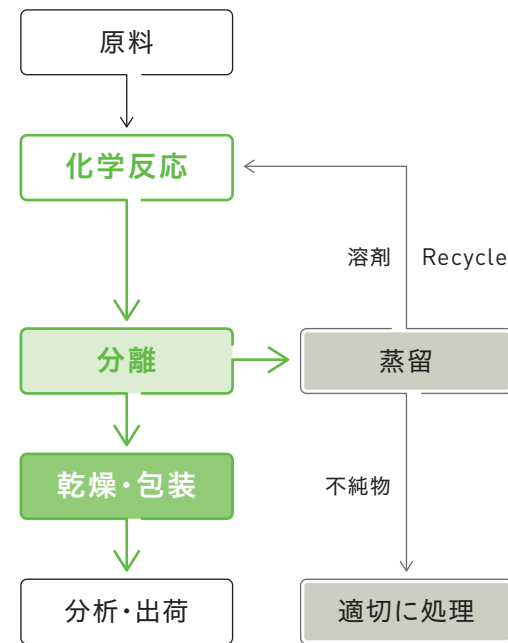
小スケールから大スケールまで対応できる多くの汎用設備（マルチパーパスプラント）と環境保護の為に大型の廃棄物処理設備を所有しています。これらの設備とこれまで培ってきたノウハウにより幅広い化合物の生産に対応できます。

- 01 早期工業化
- 02 強固な品質保証体制
- 03 安全で無公害な生産

原体生産はどのように行われるの？

農薬原体は、安全・高品質・安価をキーワードに工業的に生産されます。下の図は原体生産の流れを簡易的に図式化したものです。原料から化学反応により、農薬原体が作られ、分離により不純物を取り除いた後、乾燥、包装され、製品となります。

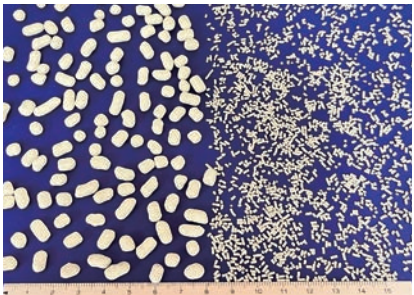
簡単に説明しましたが、数日にわたる長い手順を踏んで、ようやく農薬原体が完成します。農薬原体は粉状や液状であることが多く、専用の容器に入れられて、自社の製剤工場や他社に納品されます。



農薬Q&A Q: 農薬とは？

病害虫や雑草を防除し、安全な農産物の安定供給に欠かせないもの。微量の有効成分で効果を十分に発揮させるためには、広い農地に均一に散布する必要があります。

農薬は、アクシーブやエフィーダなどの原体と呼ばれる有効成分と、その効果を引き出すための副資材で構成されています。副資材には、界面活性剤、溶剤、増粘剤、凍結防止剤などがあり、農薬ごとに原体・副資材の種類やその含有量は異なります。これらの原材料をもとに、使用方法や用途に適した剤型に製剤化することで農薬の製品となります。粒剤、フロアブル、顆粒水和剤、乳剤など、いろいろな剤型があり、当社独自の豆つぶ剤もそのひとつです。また、単一の原体のみを含む単剤と、機能性を高めるために2種類以上の原体を組み合わせて製剤化する混合剤があります。農薬製品は効果を発揮するために、剤型などさまざまな工夫がされています。



豆つぶ剤(左)と1キログラム粒剤(右)の大きさ比較